

## 伊東ふれあいセンター

◆ 5/1 のメーデーと 5/3 の憲法集会をお知らせするため号外を発行しました。それぞれ同封(添付)の案内チラシをご覧になって、要領をご確認ください。一、二補足します。

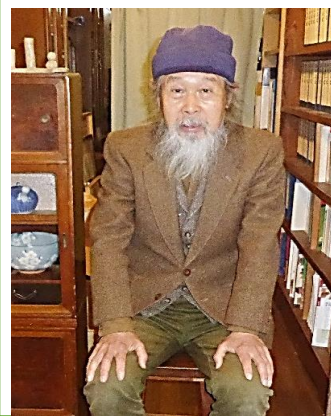
①5/1 メーデーは少雨決行です。物見塚公園で 17:30 スタートです。

②5/3 憲法集会は伊東ふれあいセンター3Fを会場に、13:00 から講演、決議、歌のプログラムで進行します。晴雨に関わらず実施します。終了後 15:00～市内パレードを行います。こちらは少雨決行です。



伊東市松川町 5-10(☎ 38-5551)

## こ の 人 に 聞 く



### 平澤哲さん

3月28日、城ヶ崎文化資料館を訪ね、平澤哲さんにインタビューしました。平澤さんは「伊東市民アクション」設立時の呼びかけ人の一人で、資料館の館長をされています。また、昆虫や植物に造詣が深く、とくにアジサイの収集家として著名です。インタビューでは昔の城ヶ崎・八幡野のたたずまいや、平澤さんのアジサイの新品種発見の経緯や資料館に寄せる思いなど、多彩なテーマについて縦横に語っていただきました。長文のため、通信に何回かに分けて掲載します。今回がその1です。

### ～八幡野、富戸の今昔～

三好…私は富戸の生まれですけども、今のオレンジ村へ移って父親が蜜柑畑を作りました。ですからあの辺りが城ヶ崎かと思っていたのですけど 違うんですね。

平澤…そうですね、赤沢からずっと 富戸のどこまでだろう、ずっと溶岩が流れてできた海岸が続いたところですよ、あの辺り一体を言うわけです。

三好…蓮着寺の門脇灯台とかあの辺りを言うのかと思っていた。

平澤…みんなね、こっちの方まで続いているというのを知らない人は多いです。

三好…どうしてここが城ヶ崎文化資料館なのかなと最初は思いました。

平澤…市の方もこっちにはあんまり金かけない。富戸の方は一生懸命やりますけど。ここは市に言ってもやってくれないものね。

三好…でもいろいろ人形館とか テディベアとか、賑わいがすごいですね。

平澤…そういう施設は市は全く関係なしにみんな個人で作っています。

三好…港の近くのあの辺りが中心かと思ったらもう全く違う。そこは古いまんまで。

平澤…今子供もほとんどいないしもうあの港の周りは本当に年寄りがほとんどで。

三好…ダイバーがいるくらいで。

平澤…ダイバーが来てもそれほど役にも立たない。

だいたい八幡野に来るのはロッククライミングとダイバーで、結局は村の中でダイバーが金を落としてくれるということはほとんどないので。

三好…管理しているのは漁協ですか。

平澤…港と海は漁協ですね。

三好…漁協にはいくらか入るんですかね。

平澤…いや、昔はねダイバーも漁船を使って離れたところに行って降ろしてもらって潜ったんですが、今はもうそういうのはほとんどないですね。お金を使わないで潜る人が多いので。船でやっていると言っても本当にわずかでしょね。

三好…それじゃあまり地元には……

平澤…地元にはあまり関係ないね。八幡野に来るそういう人は観光じゃないからね。目的はそれしかない。ロッククライミングでも、駐車場に停めて目的地に行って、またすぐ車で帰るという形ですよ。泊まるとも別に民宿というよりもそういうところで宿泊を確保しているの。

三好…ダイバーさんで結構潤っているかと。

平澤…いやいや、ダイバーさんはそんなお金にならないですよ。昔は漁師も船使ってくれるから結構よかったですけど。バブルの時代と

違って今お金を使わないから。昔と全く違いますよね。

三好…平澤さんは八幡野の生まれですね。平澤姓は八幡野が多いですけど。

平澤…平澤といたら伊東の場合はもうほとんど八幡野出身の人で他には平澤はなかった。東海岸ですっと見ても平澤はここしかないんですよ。

三好…同級生にも結構平澤の姓の生徒がいましたが、みんな八幡野ですね。

平澤…そうそう。元は一軒だから、それからみんな分家して。うちも江戸時代に分家したところなので。みんな港の近くに本家があって本家の周りはだいたい江戸時代に分家した人が住んでいてそれからまた分かれて。

三好…末広がりに広がって。富戸は日吉とか石井とか だいたいみんな。

平澤…同じようなものですよ。だいたい決まっています、小学校へ行って苗字を言っても役に立たない。

三好…屋号ですね。

平澤…屋号か名前ですよ。電話なんかもみんな屋号で言って。私の小さい頃は電話にダイヤルがなくて、横のハンドルをジリジリ回して



交換手が出るから、「どこどこ」って みんな屋号で言った。

三好…電話の普及したのは結構後になるのです。

平澤…何時頃だろうな小学校の頃かな。小学校は上級生か、それぐらいだろうな。

三好…対島村って呼ばれていたわけですよね。それから伊東市に合併されたわけですね。小学校の頃は伊東市に編入されていたのですか。

平澤…伊東市だったと思いますね、もう覚えていないけど。八幡野小学校で対島中学校で、伊東高校ですけど。私の頃は富戸には分校があって。

三好…そうそう。私は対島中学分校の最後の生徒です。一つ下の子からこちらの対島中学の方へ行って分校は廃止されたんですね。

平澤…私の頃はまだ分校があったから。一回合同の運動会があってそれで行ったことありますね、中学校のとき。

三好…私のときもやられていましたね。私はテニス部だったんですけどテニスの練習試合で対島中学まで来て練習をやったことあります。だから交流は少しはあったんですね。そういう交流よりも昔は隣の町とか村に対しては警戒心が強くて、それぞれが閉鎖的な部落となっていた。

平澤…ここはもともとよそから来た人を大事にする土地柄なので大事にしていたんです。区有

地を売ったときなんか新しく来た人もそのときに住んでいればお金を配っています。新しく来てもみんな結構親切でみんな仲良くやっていましたね。

三好…そうですか。ここの岡野さんのところにイロカが獲れたとき持って行ったりしたのですが、国道に入るときから身構えて。

平澤…全然そういうことは考えもしなかった。私の親の親か、富戸から嫁をもらってボラとか持ってきましたね。

三好…岡野さんの奥さんは私の父親の妹にあたるのです。富戸から嫁に来た。

平澤…そういう点では交流が。

三好…そういう点は。でも、子供のときは負けちゃいかん、と。隠れて石を持ったりして。

平澤…そんなこと思ったことない。うちの近くにもよそから疎開というか、東京が危ないからってずっと住んでいた人がいたのですけどね。戦中から来ていた。

三好…そうですか。ちょっと私の偏見というか。

平澤…村によってそういうのは違ってきますよね。もともと江戸時代からずっとよそから人が入ってきているので。もともと住んでいてという人はそんなになくて、ほとんど関西からですね。関西とそれよりより古くは九州の方からこっちに来ている人がほとんどなのです。地検を始めてから、秀吉の頃です

かね、その頃からここにやってきた人は分かっているのですが、その前は九州とか京都とか向こうの方から来て。地検ができてから分かっている人は 紀伊半島とか大阪、兵庫。関東からは一軒だけですね、相模からここに来た一軒だけでほとんどが関西ですね。

三好…そうですか。富戸は、私はあまり知らないのですが、漁業で来た人たちが代々と続いた、と思っていた。成り立ちが違うのかも分からないですね。

平澤…ここは来やすかったのでしょうか、新しい人が。

三好…平沢さんの時には何代もここに住まわっていたわけですね。

平澤…そうそう。

### ～昆虫学と植物学～

三好…対島中から伊東高校、そして大学に進まれたのですね。大学ではどんなことを勉強していたんですか。

平澤…東京農大へ行って 私の場合は昆虫学なのです。農大行っているから みんな農業のこと分かるのだろうと思っているけど、私の場合は全然。基礎昆虫学。そこは行く人が少ないので 1年で 4人か5人くらいですかね、研究室に入るのは、2,3人の時もある。

三好…基礎昆虫って、普通の昆虫とは違うんですか。

平澤…普通は玉川大学とか応用昆虫って言って 蜜蜂やったり、役に立つことが結構多いんです。私の行ったところは趣味みたいなものですよね。金には一切関わらない。

三好…小さい頃から昆虫を追っかけて？

平澤…小さい頃から植物が好きで、昆虫も興味があって、そこへ行くと 1年の時から研究室に入れたので。他の人気のあるとこだと研究室に入るのは2年からなんですね。1年の時からそこは行けたので行っていました。

三好…野外調査とかしょっちゅう行っているわけですか。

平澤…皆さんそうですよね。私も付き合っ行って行きました。でもあれが嫌いなんです、捕まえるのは。かわいそう。捕まえてきてみんな殺すのだから。それが嫌で一緒には行くけど昆虫採集はやらなかった。

(つづく)

### 〔資料館の地図〕

